

国際センター通信 (No. 45)

日本 — 比類なき経験 ～留学生体験記～

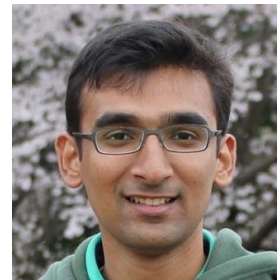
アブダル・モイツと申します。現在、東京大学大学院工学系研究科の修士1年に在学し、河川／流域環境研究室に所属しています。2015年10月にパキスタンのタキシラ大学を卒業し、東京に来ました。日本に降り立った直後から、私の経験は日々エキサイティングなものになっています。東京の「ジャングル」のようなインフラから、神社仏閣の落ち着いた美しいたたずまいまで、日本は本当に、技術や開発が自然や歴史と調和しているところだと思います。

5、6年前まで、私は土木工学の専門家になるとは考えてもみませんでした。私の父は私と同じパキスタンの大学を1983年に卒業した土木技術者ですが、まさに父が私にこの土木工学の専門家になる気持ちを強く抱かせてくれました。学部で4年以上にわたって勉強に明け暮れている間にも、多くのすばらしい先生に出会いました。中でも、水文学を教えていただいた Muhammad Ali Shamin 博士は特筆に値する方です。それまでは水文学の重要性を認識していませんでしたし、土木工学は建物や道路、基礎などだけに関わるものと考えていました。私が土木工学の中に、より大きな何かを感じた初めてのことでした。パキスタンにとって水資源がいかに大切であり、これに関係する問題はよりチャレンジングで複雑になっていることに思い至りました。博士は、私の目標をより鮮明にしてくださり、「明日」の複雑なチャレンジに必要な新しい見方を会得するために、東京大学でより高度な勉強を行うことを勧めてくださいました。

東京大学での授業は英語で行われ、学内では誰もが英語で話すものの、私にとっての最大のチャレンジは学外での日本の方々とのコミュニケーションです。工学系研究科による集中的な日本語コースは、熱心な先生方のお陰で、とても役立っています。以前は、自分に他の言語を学ぶ能力があるなどとは思ってもよらないことでした。もちろん、私の指導教員である東京大学特任准教授の川崎昭如博士のご支援は言うまでもありません。川崎准教授は、学術分野での能力向上と課外活動を楽しむことの両面でいろいろな機会を与えてくれます。

東京大学の外国人学生オフィス (FSO) は、私が日本での生活に馴染むことを手助けしてくれました。工学系研究科の同窓会が運営するホストファミリープログラムは、私が日本文化についてより理解し、より家庭的な雰囲気味わうため、日本でのホストファミリーを紹介してくれました。また FSO は同窓会と一緒に頻りに、忙しい日々の課程の息抜きや、研究室の外で土木工学について多くを学べるよう、多くのイベントや旅行を企画しています。最近の例では、JSCE と共同で、東京・渋谷の再開発現場の見学会があります。多種のインフラの要素が複雑に絡み合っている状況を見て、また、すべての建設工事が周辺への影響を最小限にする配慮をもって実施されていることに驚きました。

私の研究は、GIS (地理情報システム) と先端的水文モデリングである WEB-DHM (Water and Energy Budget-based Distributed Hydrological Model) を使って、パキスタンの包蔵水力の評価を行うことです。パキスタンでの電力危機状況は大きな問題となっています。幸いなことに、パキスタンは水力の形で莫大なエネルギーを貯蔵しています。この水力はパキスタンにおけるエネルギー危機の状況を軽減し、将来の経済発展への道を開くために活用できると思います。長年、日本は水資源のエンジニアリングおよびマネジメントの分野で、その先端的研究や最新技術をもってパイオニアで



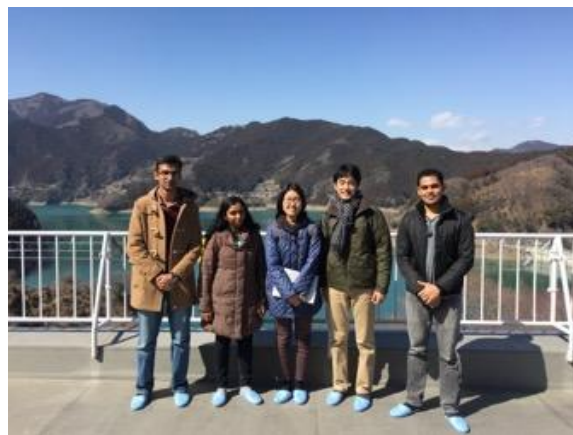
Abdul Moiz
(東京大学大学院 修士1年)

あり続けています。草木ダムや下久保ダムを訪れましたが、日本でのダムの運用、モニタリング、維持管理、歴史について多くを学ぶことができましたし、これらのダムが日本社会にとっていかに重要であるかを学ぶことができました。私どもの研究グループは毎週のミーティングで、アイデアや進捗を紹介するとともに、メンバーが直面している研究上の問題に対する解決策を提案したりしています。研究活動についてはグループのウェブサイト (<http://kawasakilab.blogspot.jp/>) で頻繁に更新されています。

最後に、奨学金留学生に選んでいただいた文部科学省に感謝いたします。学業に励み、確かな決意を持って、研究の目的を達成するとともに、日本滞在という機会を最大限活用したいと思います。



渋谷の再開発現場視察に参加した方々



研究グループのメンバーと下久保ダムを訪問

第2回グローバルビジョン講演会 「建設産業のM&Aに学ぶ(AECOM社)」

2016年4月8日に、土木学会国際センターと建設マネジメント委員会の共催で、「グローバルビジョン講演会 2016「建設産業のグローバル戦略」～建設産業のM&Aに学ぶ編～」を開催した。

我が国では、厳しい社会経済情勢の中、困難な環境条件のもとでインフラ整備が行われ、今日の国土の発展の基盤を築きあげてきた。この経験を、今後更なる市場の拡大が見込まれる国々で活かし、世界のインフラ需要を積極的に取り込むことにより我が国の経済成長につなげていくためには、成長戦略が極めて重要である。近い将来、日本国内での新規建設投資の縮小が見込まれる中、海外事業を国内事業と並ぶ重要なビジネスのコアとして明確に位置付けるためには、各企業が、いわゆる政府開発援助（ODA）事業に頼ることなく、世界の建設市場に対する戦略的な行動を継続していく必要がある。

そこで、世界のグローバル企業とともに、建設産業のグローバル戦略を語り、我が国の建設産業の海外展開戦略を考えるきっかけとしていただけるよう、本講演会を企画した。

基調講演では、岡積敏雄氏（国土交通省）から、インフラシステム海外展開の取り組みについて講演いただいた。我が国の建設技術力を活用して、発展途上国のインフラ整備を支援することは、我が国が国際社会の中でプレゼンスを高めるうえで大変重要なことであるということであらためて感じた。

その後の講演では、栄枝秀樹氏（AECOM ジャパン）とイアン・チュン氏（AECOM アジア）から、M&Aという手段を活用したAECOM社の成長戦略、買収後の経営と新たなビジネスモデルなどに関するご紹介をいただいた。

今回の講演会は、国土交通省と米国大使館商務部の後援をいただき、70名を超える参加者を集めて開催され、質疑応答では活発な意見が交わされるなど大変盛会であった。閉会後も、参加者から、通常では聞くことの難しいM&Aに関する情報を得ることができとても有意義な講演会であったなど、感謝の言葉を多くいただいた。



国際センター 次長
教育Gリーダー 納多 勝



基調講演の様子



講演の様子

景観・デザイン委員会の活動紹介

景観・デザイン委員会は、土木構造物およびそれらによって形成される空間の質を高めるために、景観・デザインに関する調査研究を行うとともに、良好な景観形成を実現するための施策や具体的方法の提案、また実現されたものの評価等を行うことを目的として、1997年度に設立された。本委員会の主な活動として、「土木学会デザイン賞」の表彰と「景観・デザイン研究発表会」の開催が挙げられる。

2001年より毎年実施している土木学会デザイン賞は、土木分野においてデザインを競う土壌づくりを狙いながら、過去15年間で国内の137作品を表彰してきた。公募対象を広く土木構造物や公共的な空間に求め、計画や設計技術、制度の活用、組織活動の創意工夫により、周辺環境や地域と一体となった景観の創造・保全を実現した作品と、それらの実現に貢献した関係者や関係組織の表彰を行っている。賞の選考は、景観、構造・橋梁、河川、都市計画、建築、ランドスケープ、工業デザイン等の専門家からなる選考委員会により行われ、選考委員による活発な議論が交わされている。2014年より受賞作品選集やウェブサイトのリニューアルを進め、関係者のみならず、一般市民にもわかりやすいメディアとなるように努めている。



景観・デザイン委員会
委員長 北村真一
(山梨大学)

景観・デザイン研究発表会については、2005年12月に第1回を開催して以来、毎年50～60件程度の論文・論説と事例の発表がある。発表会の特徴として、狭義の学術研究に相当する部門のほかに、デザイン作品部門、計画マネジメント部門、論説・評論部門を設けている点があげられる。デザイン作品部門と計画・マネジメント部門は、プロジェクトにおける創造的行為について、その当事者が具体的なデザインや技術、制度や手法等の工夫といった点から論ずるものである。論説・評論部門は景観・デザインの本質に迫り、あるべき姿を展望する論述を対象としている。2013年からは、テーマに即した技術や考え方を現場の技術者や設計者が議論するテクニカルディスカッションを設け、特に現場の仕事や経験を広く議論、共有できる場づくりを進めている。

土木学会デザイン賞 2015 最優秀賞受賞作品



一乗谷川 ふるさとの川整備事業 (福井県福井市)



北彩都あさひかわ (北海道旭川市)

お知らせ

- ◆ 土木学会誌の特集記事の概要を JSCE の Website (英語版) にアップしました。

<http://www.jsce-int.org/pub/magazine>

- ◆ 平成 27 年度土木学会賞のうち、技術賞、環境賞、田中賞作品部門、技術開発賞、国際貢献賞、国際活動奨励賞、国際活動協力賞の受賞者を JSCE の Website (英語版) にアップしました。

http://www.jsce-int.org/a_t

- ◆ 平成 28 年熊本地震の被害調査報告が掲載されています。

http://iresc.kumamoto-u.ac.jp/iresc_dobokureport.pdf (西部支部)

<http://committees.jsce.or.jp/report/node/117> (西部支部)

<http://committees.jsce.or.jp/eec2/> (地震工学委員会)

<http://www.jsce-ip.com/events/symposium/finished.html?id=162> (土木計画学研究委員会)

<http://committees.jsce.or.jp/report/node/115> (水工学委員会)

<http://committees.jsce.or.jp/report/system/files/%E4%BC%9A%E9%95%B7%E7%89%B9%E5%88%A5%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E5%9B%A3%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E5%A0%B1%E5%91%8A.pdf> (会長特別調査団)

配信申し込み

「国際センター通信」配信の申し込みは以下の URL よりお願いいたします。また、周囲の方に国際センター通信をご紹介いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

「国際センター通信」配信希望者 登録フォーム

- ・日本語版 : (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>)
- ・英語版 : (<http://www.jsce-int.org/node/150>)

投稿記事募集します

国際センターでは、会員の皆様から幅広く投稿記事を募集しています。テーマはプロジェクト紹介、技術紹介、ご自身の体験談などです。文字数は 800 字程度で和文または英文でご投稿ください。

記事投稿の詳細はコチラ>>> (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/47>)

英語版 Facebook

国際センターの英語版 Facebook です。直近の国際センターの活動について紹介していますので、ぜひご覧ください。(<https://www.facebook.com/JSCE.en>)

【ご意見・ご質問】: JSCE IAC: iac-news@jsce.or.jp

本通信をより話題性に富んだ内容にするため、皆様のご意見やコメントをお聞かせください。